

ほつかいどう NIE 通信

A cartoon illustration of a blue, rounded head with two small antennae-like ears. The head is looking down at a yellow book it is holding open with both hands. The book has the text "第 42 号" (Number 42) printed on its cover.

発行 北海道NIE推進協議会

〒 060-8711 札幌市中央区大通西 3 丁目 6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

私が教職に就いた頃は、まだ「生きる力」という概念はなかったが、自分の専攻教科である社会科の研究を通して、学びや学び方をどのように育てるか、について考えてきた。これは、現代の「生きる力」の育成にも通じるものだと考えられる。



表現力の向上に活用を

札幌市清田緑小校長
逸見直和

習指導要領の教科目標、学年目標・内容等を検討し、地域や児童の実態に合わせて単元構成を考えた。一单元の中で、先の単元目標が達成できるよう願い、だ。レイアウトや記事の書

断力の育成であるが、子どもたちの学習の成果を表すための表現力の育成にも力を入れた。単元の最後には、必ず新聞に取り組ん

「みんなのニュース」を発表させた。身近なニュース、新聞から見つけたニュース等を交代で発表したことで、表現力の向上に役立つたと思っている。さら

ながつたと考えている。小學生でもできるところから、大いに新聞を活用し、社会を見る目や表現力を育てることが大切だと考えている。

一連の教育改革も新学習指導要領の告示により、その具体化がいよいよ学校現場に下りてきた。新学習指導要領でもつとも大切にしたいことは、「生きる力」の育成である。

小学の部の優秀賞は全国で4点。うち道内から幕別町穂内小3・4年3人ケループ（代表・橋本侑茉さん）

社会科の単元目標は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」である。授業づくりのときは、まず学

そのために有効な問題解決の仕組みを学習を進めていた。そこで、特に大切にしていたのが、単元目標の実現に迫るための思考力・判断力による「朝の会」の中で、また、社会科だけで表現される力が育つわけではない。児童による「朝の会」の中で、き方は、本物の新聞が大きい参考になつた。

に、家庭学習ノートを毎日続けた。いわゆる、宿題ではない家庭学習の習慣づけである。その中にも、新聞の切り抜きをノートに張

わがまち新聞コンクール

NIE週間の関連行事として日本新聞教育文化財団が全国から募集した「第5回わがまち新聞コンクール」の小学の部で、訓子府町居武士小5年・宮内みずほさん、同2年・宮内せいや君姉弟の作品「メロンタイムス」〔写真〕が最優秀賞に輝いた。道内作品は他の4点が優秀賞に、2校が団体賞に選ばれ、全国都道府県の中で最多受賞となつた。

姉弟が、丹念に町の中を取材して歩き、町を好きになつていく様子がよくわかる紙面になつてゐる」と評価された。

訓子府の姉弟 最優秀

小学の部 丹念な取材を評価

「聞」が選ばれた

四〇

査には、北海道審査の最優秀1、優秀5作品と団体賞2校が出品されていた。道内作品の5年連続全国1は逃したが、受賞数は過去最多で、全国都道府県で最も多かった。

3地区でセミナー 網走は初開催

当協議会主催のNIEセミナーが江差・網走・岩見沢の3地区で開かれ、NIEに取り組む教諭たちが授業での新聞活用や新聞作りなどについて実践報告した。網走では初めての開催で、会場のNIE実践校・白鳥台小では公開授業も行われた。

新聞作り通し 発言積極的に

●江 差

第3回江差・桧山セミナーは9月5日、江差町役場で開催(写真)。江差小・黒瀧康子教諭は「新聞作りで子どもたちは社会情報を得て、積極的に発言するようになつた」と学習効果を指摘。江差町南が丘小・山本雅樹教諭は、宿泊研修の内容をまとめる新聞作りで文章の書き方について発



徒の国語力は伸びており、さらに効果的な教材作りや授業に取り組みたい」と強調した。
3年の「政治経済」で記事のコメントを書かせている松山北高・石崎洋志教諭は「社会性が身についた生徒が増えたが、教科書の授業の遅れが課題」と悩みを語った。江差高・岩間洋之教諭は「新聞作りで生徒たちは大きく成長している」と報告した。

命の貴さ知る 地震の記事で

●網 走

第7回北見・網走セミナーは9月18日、網走市白鳥台小で開催。5年道徳の公開授業で小中理司教諭は、新潟県中越



地の国語力は伸びており、さらに効果的な教材作りや授業に取り組みたい」と強調した。
3年の「政治経済」で記事のコメントを書かせている松山北高・石崎洋志教諭は「社会性が身についた生徒たちは大きく成長している」と報告した。

平和学ぶ教材 ヒロシマ新聞

●岩見沢

第6回岩見沢・空知セミナーは10月3日、北海道新

徒の国語力は伸びており、さらに効果的な教材作りや授業に取り組みたい」と強調した。
3年の「政治経済」で記事のコメントを書かせている松山北高・石崎洋志教諭は「社会性が身についた生徒たちは大きく成長している」と報告した。

NIE実践奮闘記 記事要約 読む力つける

NIE実践奮闘記

「やつてみないか」という誘いを受けたのは、伊達市の英語劇を指導して

いた時。室蘭の宮重徹三先生との偶然の出会いで

した。「学習は総合的なものであるもの」という私の考え方と、NIEという学習の形に合っていることを学んだところが、スタートでした。それま

で新聞などを取り上げて学習していたのですが、これを機に意識した取り組みを始めることになりました。

苦小牧市美園小教諭 坂井 亮一



転勤した苦小牧市美園小は、開校当時から子ど

た。秋の新聞記事や秋の写真を本の形にまとめ、奥付に図書資料分類法

た。秋の新聞記事や秋の写真を本の形にまとめ、奥付に図書資料分類法「NDC」を書き、自分で

の子その子の秋のとらえ方や記事のイメージが楽しく伝わり、NDCを通して子どもたちが創ろうとした本の方向性を知ることができました。

現在の5年の活動とし

ては、「読む力」を子どもたちにつけさせたいので、生きた情報を使い、新聞記事などを集め、ページに張っていきます。また、カメラを持たせ、写真を撮ることで、秋の切

り入れ、読み取ることによって社会を考え引きかけになるといいなあと願っています。

毎日取り組むのはなかなか大変なのですが、春期に入りつづある子どもたちと、世界のぞく窓の一つとして新聞を活用しながら楽しく学んでいきたいと思つています。

新聞を現在の視点で取材編集した「ヒロシマ新聞」や英字新聞を教材に使った授業について報告(写真右)。「旅行のまとめに壁新聞を作ることで、生徒たちが自ら考え、学び、まとめ、発表し、評価する活動が定着してきた」と説明した。



事実と意見 分けて確認

中学1年の国語単元「言葉を考える」で、士幌町士幌町中央中の高橋飛鳥教諭は生徒の読解力、表現力を高めるために新聞のコラムを使っている。個人で、グループでコラムの内容を考えさせ、互いに発表させるメリハリのきいた授業を紹介する。

(北海道新聞N.I.E推進センター委員・小田原賢二)

コラムの構成わかつた

士幌・士幌町中央中



実践校 リポート

見学したのは10月上旬で、
1年A組(28人)。教科書は国語1年【伝え会う】(教育出版)
の単元「言葉を考える」。
この単元には「今時の言葉
づかい」「言葉変わっていくけ
れど現象」などの意見文が掲
載されており、高橋教諭は昨
年7月の国語世論調査の記事
コラムの拡大コピーを黒板に
張り、事実と意見の違いを指
摘する高橋教諭

国語世論調査を題材に

高橋教諭は、この世論調査の記事を配つて内容を読み聞かせ、これらの慣用句や「悔然（ぶぜん）」「さわり」の言葉を大部分の人たちが誤用していることを教えた。その後、報道記事とコラムの形式、内容の違いを説明し、この調査に関する朝日新聞の「天声人語」を読んで聞かせた。

高橋教諭は、1学期には2年の国語で新聞の特徴も教えている。「1年には4月に新聞購読アンケートを実施したが、TV欄やスポーツ面しか見ない子どもがほとんどだつた。今は記事 자체への興味がかなり高まつた。これからは冬休みの課題でスクラップ作りに取り組み、彼らが2年になつたら投稿もさせたい」と意欲を燃やしている。

プロゴルフに発表した。

翌週には、やはり同世論調査を取り上げた北海道新聞の

わがまち新聞コンクールの全国審査に先立つて実施された「北海道コンクール」の入賞者が10月8日決まった。最優秀賞には、松前町大島中2年4人グループの作品「桜花伝」が選ばれた。**優秀賞 団体賞**は次の通り（敬称略）
◇優秀賞▽幕別町糠内小3・4年3人グループ「まくべつ」▽美幌小6年・榎本明莉「ぜひごらんあれびほろ町新聞」▽訓子府町居武士小5年・宮内みずほ、2年・宮内せいや「メロンタイムス」▽江別市立命館慶祥中2年4年グループ「発信！」江別プラ

わがまち新聞北海道コンクール 松前・大島中が最優秀



二叉路

寺嶋誠也教

二網走市白痴
訛七孝豆

は「心の教育」に力
おり、道徳の授業づ

学校挙げて授業づくり



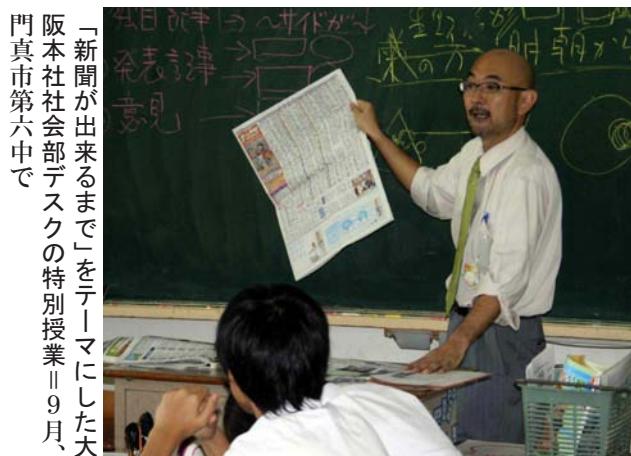
の効果的な登場のさせ方とのどこを読み取らせるか」



など多岐にわたった。

公開授業の内容は、セミナーの中でも検討していくいただき、大変良い勉強をさせてもらうと共に、新聞活用の効果を痛感した。願わくば、校内での記事検索や紙面利用の環境向上を。そうすれば現場教員がさらに活動に活用できると考えているのだ

社会部デスクが学校へ



「新聞が出来るまで」をテーマにした大阪本社社会部デスクの特別授業。9月、門真市第六中で

社員の子に現場見学会

豊かな人生を送るために新しい発見を数多く経験し、より多くの真実を知り、それを蓄積していくことが重要であると思っています。いろいろなところに真実、事実はあふれているのですが、私たちはなぜか、神のいたずらなのか白紙の状態で生まれ、そして多くのことを吸収しても少なくとも少しばかりの記憶に残る、はかない存在とな

産経新聞社

産経新聞は、大阪、東京両本社で、記者を学校に派遣する特別授業や新聞制作の見学会などに取り組んでいます。同社のNIEに対する考え方や活動について寄稿してもらつた。

全国紙の取り組み

⑤

産経新聞大阪本社では、NIE活動の一環として社会部デスクが学校現場に出かけ、記者の仕事や新聞制作をわかりやすく解説しています。東京本社では先ごろ、社員の子供たちを対象に新聞制作の現場見学会を開催しました。新聞社に勤

編集後記

○…江差、網走、岩見沢のセミナーを通じて、新聞作りに熱心な多くの先生たちを知った。彼らは、新聞作りが子供たちの成長に大きな効果を挙げていると強調していた。

○…「地域の取材を通して、社会問題に関心を持つようになった」「インタビューで話す、聞く、書くの言語活動が充実する」「さまざま角度から考察することで、客観的な判断力が身につく」など。一言ひとと言に重みがあった。

○…わがまち新聞コンクールの結果を見ての通り、道内の新聞制作の水準は全国1である。それだけ社会性や言語力を備え、しっかりした判断力を持った子どもたちが育っているように思うのだが。身びいきだろうか。

○…3年5ヶ月間本紙の編集長を務めてきましたが、10月末で退職致します。寄稿、取材で多くの先生方にご協力いただきました。ありがとうございました。(小田原)

自身で新聞を作つてもらえたと思います。眞実、事実を知ること伝えることの難しさ、喜び、感謝、いろいろなものを体験できるでしょう。そして、その練り返しとして新聞をよく読み、また自分たちの新聞を作つていくことにより広い心が養われると信じています。

理部長 阿部英希

わが社では、豊かな人生を送るために必要な、子供たちの明るい未来のために必要な新聞をこれからも作り続け、そして自信を持つ

そこでも新聞に触れてもらいたいのです。まずは手にとつて、そして実際に子供たち

で、その「知る」という目的の手段として、新聞は有力なものだと考えます。

そこで、子供たちにぜひとも新聞に触れてもらいたいのです。まずは手にとつて、そして実際に子供たち

で、第9回旭川セミナーは

12月5日(土)午後1時半から北海道新聞旭川支社

(4条通10丁目)でそれぞ

当協議会主催の第4回NIE苦小牧・日高セミナーは11月14日(土)午後1時半から苦小牧民報社4階ホール(若草町3丁目1の8)で、第9回旭川セミナーは

12月5日(土)午後1時半から北海道新聞旭川支社

(4条通10丁目)でそれぞ

河第一中・近藤弘樹教諭、浦河町浦

武敦史教諭、小平町小平

牧西高・浦川雅智教諭

旭川忠和小・大

石川春菜教諭、名

寄高・近田泰生教諭、富良

野高・齋藤宏臣教諭

い合わせは十勝新聞教育研

究会事務局長の森田昌宏・

清川中教諭(☎0155・

60・2055)へ。

第14回北海道NIE研究

大会兼第20回北海道十勝新聞教育研究大会は11月20日

(金)午後零時40分から帯

広市啓西小(柏林台中町4)

で開かれる。

公開授業者と実践発表者

は次の通り。参加無料。問

11月14日苦小牧
12月5日は旭川
NIEセミナー

▽苦小牧 伊達市稀府
河第一中・近藤弘樹教諭、浦河町浦
武敦史教諭、小平町小平
牧西高・浦川雅智教諭
旭川忠和小・大
石川春菜教諭、名
寄高・近田泰生教諭、富良
野高・齋藤宏臣教諭
い合わせは十勝新聞教育研
究会事務局長の森田昌宏・
清川中教諭(☎0155・
60・2055)へ。
第14回北海道NIE研究
大会兼第20回北海道十勝新聞教育研究大会は11月20日
(金)午後零時40分から帯
広市啓西小(柏林台中町4)
で開かれる。
公開授業者と実践発表者
は次の通り。参加無料。問

お知らせ

れ開かれる。

両セミナーの実践報告者は次の通り。参加申し込みと問い合わせは協議会事務局(北海道新聞本社内☎011・210・5802)へ。